

令和4年

季刊

夏季号

Vol.82

亞東



公益財団法人 日本台湾交流協会会長 大橋光夫先生 講演



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七-四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「垂東」 令和四年 夏季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷

目次・協会役員名簿

令和四年度第七三回通常総会終了の報告

令和三年度事業報告書

決算報告書

令和四年度事業計画書

収支予算書

令和四年度通常総会・講演会を開催

〈日本台湾交流協会の大橋光夫会長が講演〉

一般社団法人日本台湾親善協会

講演会のご案内

暑中見舞い広告

二頁	三頁	四頁	五頁	六頁	九頁	一〇頁	一一頁	一二頁	二三頁
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----

令和4年5月23日 現在

役員名簿

名誉会長	玉澤徳一郎								
会長	衛藤征士郎								
副会長	山本順三	張岩田	建国善信	張	碧華				
	並木正芳								
専務理事	赤松 則宏								
業務執行理事	藤山 雅康	笹岡 恭亮							
	榎本 有里								
理事 23名	衛藤征士郎	張藤山城	建国康英	張益山	碧華茂	山本伊野	順三雅晴	並木明石	正芳散人
	赤松森田	岩田善正	光忠貴哲	榎本加藤	有里光淑	富田由起子	家彰子	岡石富田	茂之
	熊沢	浅見		柴田	徳				
監事		2名	李 八口ル			鈴木 慶一			
事務局			李 孔曉						

一般社団法人 日本台湾親善協会

令和四年度 第七三回通常総会修了の報告

一般社団法人 日本台湾親善協会 事務局

拝啓 青葉若葉の候、会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、去る五月二三日に開催しました当協会の第七三回通常総会は各位のご協力を得まして、下記の通り全議案を滞りなく承認可決致しました。

就きましては、今後とも、会員一同並びに関係各位の協力のもとに、総会決議に基づき、各種の事業活動を一段と活発に進めてまいる所存でございます。

何卒、尚一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先ずは、総会終了のご報告方々ご挨拶申し上げます。

敬具

記

(出席者)

一五四名(委任状を含む) 定款第一五条第一項の規定により適法である旨を事務局より報告。

衛藤征士郎氏が議長に選出され総会議事に入った。

議事録署名人選出の件について議長が計り、張建国、榎本有里氏兩名が選出されました。

(決議事項)

第一号議案 令和三年度事業報告承認の件

第二号議案 令和三年度収支決算報告承認の件

以上の各議案について監査報告がなされ、それぞれ報告書の通り承認可決されました。

第三号議案 任期満了に伴う理事、監事選任の件

について推薦委員より経過報告がなされ、承認可決されました。

その他 事項報告

「令和四年度事

業計画」並びに

「令和四年度予算

」につきまして、

新法人法により理

事会承認事項とな

り四月一三日理事

会において承認さ

れましたこと報告

しました。



令和三年度 事業報告書

〔令和三年四月一日から令和四年三月三十一日まで〕

会員の皆様におかれまして、日頃日本台湾の友好親善発展のため当協会の事業活動にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

二〇二二年我が国のみならず全世界が新型コロナウイルス感染症の感染拡大翻弄される一年となりました。新型コロナウイルス感染症により、多大な影響を受けていらっしゃる方々に心よりお見舞い申し上げます。

当協会が本年度の事業計画に基づいて実施した各種事業活動について、その主な事項をご報告申し上げます。

一、組織の強化及び会員の増強

新法人への移行一〇年目を迎え、会員の増強並びに協会組織力の強化に努めた。

二、会員の移動状況

新加入会員一名

三月三十一日現在会員総数三〇四名

(個人、法人、賛助(理事、他)会員を含む)

三、令和三年度新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の為に恒例の事業(親善交流・文化活動、講演会、社会見学、日台親善の旅等)が一切出来ませんでした。

四、会報「亜東」の発行

季刊「亜東」として年四回(春、夏、秋、新春の発行で各回一、〇〇〇部、但し新春号二〇〇部増刷)会員他、関係各位に配布。

五、会議の開催

令和三年 五月二十四日(月) 令和三年度通常総会

ルポール麹町

” 一〇月 七日(木) 定例理事会

砂防会館会議室

” 一二月 八日(水) 定例理事会

明治記念館

令和四年 一月一九日(水) 定例理事会

砂防会館会議室

決 算 報 告 書

令和 3 年度

令和 3 年 4 月 1 日
令和 4 年 3 月 3 1 日

(第 7 3 期)

1. 正味財産増減計算書
2. 貸借対照表
3. 財産目録書
4. 財務諸表 注記事項
5. 会計業務監査報告書
6. 収支予算書



正味財産増減計算書
令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

法人名：一般社団法人 日本台湾親善協会
事業名：事業全体

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
経常増減の部			
経常収益			
受取会費	6,010,000	6,429,120	△419,120
個人会員受取会費	2,040,000	2,230,000	△190,000
法人会員受取会費	3,970,000	4,199,120	△229,120
事業関係会費	1,355,000	1,290,000	65,000
行広事告掲	505,000	450,000	55,000
雑取利益	850,000	840,000	10,000
受取利息	6	9	△3
経常収益計	6	9	△3
経常費用	7,365,006	7,719,129	△354,123
事業費	1,273,763	1,172,662	101,101
行季刊亜理印刷費	597,783	446,156	151,627
管給料手当	675,980	726,506	△50,526
法定福利費	6,820,065	5,480,227	1,339,838
会議交通費	3,022,900	2,570,690	452,210
旅費	331,676	0	331,676
通事務消耗品費	185,372	124,785	60,587
支償渉租	264,420	264,000	420
税公用課	298,222	136,402	161,820
経常費用計	255,414	216,370	39,044
当期経常増減額	47,244	49,133	△1,889
経常増減の部	1,885,451	1,884,330	1,121
経常外収益計	446,966	148,617	298,349
経常外費用計	82,400	85,900	△3,500
当期経常外増減額	8,093,828	6,652,889	1,440,939
当期一般正味財産増減額	△728,822	1,066,240	△1,795,062
一般正味財産期首残高			
一般正味財産期末残高	3,012,646	1,946,406	1,066,240
一般正味財産期末残高	2,283,824	3,012,646	△728,822
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,283,824	3,012,646	△728,822

貸借対照表

令和 4 年 3 月 31 日現在

法人名：一般社団法人 日本台湾親善協会

事業名：事業全体

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
流 動 資 産			
現 金 預 金	1,886,066	2,612,608	△726,542
現 金	136,747	212,139	△75,392
普 通 預 金	544,166	678,292	△134,126
郵 便 貯 金	1,205,153	1,722,177	△517,024
流 動 資 産 合 計	1,886,066	2,612,608	△726,542
固 定 資 産			
そ の 他 固 定 資 産			
電 話 加 入 権	108,858	108,858	0
敷 金	300,000	300,000	0
そ の 他 固 定 資 産 合 計	408,858	408,858	0
固 定 資 産 合 計	408,858	408,858	0
資 産 合 計	2,294,924	3,021,466	△726,542
II 負 債 の 部			
流 動 負 債			
預 り 金	11,100	8,820	2,280
流 動 負 債 合 計	11,100	8,820	2,280
負 債 合 計	11,100	8,820	2,280
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	2,283,824	3,012,646	△728,822
正 味 財 産 合 計	2,283,824	3,012,646	△728,822
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	2,294,924	3,021,466	△726,542

会計監査報告書

一般社団法人 日本台湾親善協会
会 員 各 位

令和04年5月 9日

一般社団法人 日本台湾親善協会

監 事 李 ハロル 

監 事 鈴木慶 

私たちは、令和3年4月1日から令和4年3月31日までの会計年度における
会計及び業務の監査を行い次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、各担当理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監 査 意 見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。公益継続事業における支出も目的を達成していると判断した。
- (2) 事業報告の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正な行為又は法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないと認める。

令和4年度事業計画書

[令和4年4月1日～令和5年3月31日]

当協会は1949年に東京に設立された「華南倶楽部」が発祥です。多くの政財界並びに知識人に支えられて73年の歴史を誇り他に類を見ない団体であります。アジアの平和繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参ります。

会議の開催

令和4年	4月	定例理事会
	5月	通常総会
	9月	定例理事会
	12月	定例理事会
5年	1月	定例理事会
	3月	定例理事会

事業

当法人は、深い信頼と友情の絆で結ばれ、民主主義と自由を信条とする日本と台湾との友好関係をさらに深めるため相互理解と交流を促進するとともに、日本と台湾の友好を願う社員相互の結束・融和を図り、日本と台湾の交流の発展とアジアの繁栄と平和に貢献することを目的として、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 日本と台湾との政治・経済・文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版
- (2) 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介
- (3) 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋
- (4) 日本に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業
- (5) 季刊「亜東」として年4回（春、夏、秋、新春）発行、会員外、関係各位に配布（観光事業、中華学校、等）
- (6) 継続事業の推進、本件事業についてホームページを活用し事業活動の広報に努め幅広く参加を呼びかける。
- (7) 後援、協賛事業の推進
友好団体との事業（講演会、研修会など）の後援、協賛を今後とも積極的に推進して。

前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業を実施する。

収 支 予 算 書

令和 4年 4月 1日から令和 5年 3月31日（決算）まで

法人名：一般社団法人 日本台湾親善協会

事業名：事業全体

科 目	予 算 額	前年度決算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
事業活動収入				
会費収入	7,650,000	6,010,000	1,640,000	
個人会員会費収入	2,450,000	2,040,000	410,000	
法人会員会費収入	4,200,000	3,970,000	230,000	
交流活動協力金収入	1,000,000	0	1,000,000	
事業収入	1,500,000	1,355,000	145,000	
行事関係会費収入	630,000	505,000	125,000	
広告掲載収入	870,000	850,000	20,000	
雑収入	5	6	△1	
受取利息収入	5	6	△1	
事業活動収入計	9,150,005	7,365,006	1,784,999	
事業活動支出				
事業費支出	1,735,000	1,273,763	461,237	
行事費支出	460,000	597,783	△137,783	
季刊画東印刷費支出	675,000	675,980	△980	
交流活動費支出	600,000	0	600,000	
管理費支出	7,000,000	6,820,065	179,935	
給料手当支出	3,100,000	3,022,900	77,100	
福利厚生費支出	441,000	331,676	109,324	
会議費支出	185,000	185,372	△372	
旅費交通費支出	264,000	264,420	△420	
通信費支出	295,000	298,222	△3,222	
事務消耗品費支出	255,000	255,414	△414	
支払手数料支出	47,000	47,244	△244	
賃借料支出	1,885,000	1,885,451	△451	
渉外費支出	446,000	446,966	△966	
租税公課支出	82,000	82,400	△400	
事業活動支出計	8,735,000	8,093,828	641,172	
事業活動収支差額	415,005	△728,822	1,143,827	
II 投資活動収支の部				
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	415,005	△728,822	1,143,827	
前期繰越収支差額	1,636,066	3,012,646	△1,376,580	
次期繰越収支差額	2,051,071	2,283,824	△232,753	

令和四年度通常総会・講演会を開催

～日本台湾交流協会の大橋光夫会長が講演～

令和四年度通常総会と講演会を五月二三日、千代田区平河町にあるルポール麹町で開催した。総会後の講演会には、日本の対台湾窓口機関である「日本台湾交流協会」の大橋光夫会長を講師に招き、「人類が地球を輝かせる為に」と題し、日台関係および世界連邦の実現について語っていただいた。会場には会員、顧問の国会議員および華僑界関係者、理事監事らをはじめ台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表も出席した。

大橋会長は講演の初めに、日台関係について触れ、「ゆるぎない特別な関係であり、世界に誇れる関係だ。この関係を世界のために広げていきたい」と述べた。さらに、今後もこの関係を末永く拡大していくには、日台間の十分な相互理解が不可欠であるとの観点から、日本台湾交流協会では、台湾の若い人たちに日本に対する理解を深めてもらうため、若い学生をなるべく多く日本に受け入れる取り組みをしていることなどを紹介した。

演題で掲げた目標の達成には、「世界連邦」を実現することだと力説した。世界連邦とは、世界各国が独立を保ちながら、

ある一定の地球規模の重要な問題については、国家としての形態を越え、世界全体を連邦として、その連邦で取り上げて対処していくという構想であり、現在一番の問題は「核」であると指摘した。また、岸田文雄首相が目指している「核兵器のない世界へ」の構想も併せて紹介し、地球は一つであり、政治家が世界と人類の為に働くことの重要性を説いた。

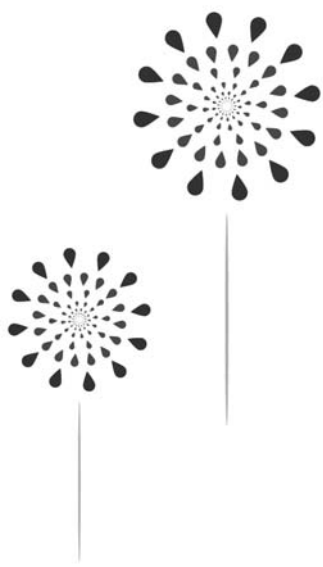
日本では世界連邦の実現へ向け、超党派の国会議員による「世界連邦日本国会委員会」も長年にわたり活動を行っており、現在、衛藤会長が同委員会の会長も務めている。国内の一部自治体でも、この実現に向けた運動の会が組織され活動していることなども紹介した。

講演会の前には謝駐日代表が挨拶し、この日行われた日米首脳会談および共同記者会見において、ウクライナ侵攻および台湾有事が重要な議題となり、バイデン米大統領が、台湾有事の際には米国が軍事的関与をする考えを示したことなどについて取り上げた。さらに、ロシアのウクライナ侵攻により、中国による台湾侵攻へと発展することを台湾は懸念しており、「警戒心を緩めていない」と強調した。

日台関係については、「双方の民間および地方自治体間の強い友好関係は国の友好関係の一番の基礎であり、きわめて重視

している」と述べた。これまでに双方の地方自治体間の友好協定締結数は一四〇件に達し、その半数以上が謝駐日代表が着任以降の六年間に締結されたもので、これらは日本台湾親善協会をはじめ日本の各関係者による支持のお陰だと強調した。さらに五月二二日より開催されている「世界保健機関（WHO）年次総会」（WHA）に、台湾は今年も参加が認められなかったが、日米をはじめ関係各国による台湾の参加支持表明に改めて感謝の意を示した。

世界連邦への運動については、講演後に挨拶した衛藤会長も、衆議院および参議院の本会議で世界連邦推進の特別決議（世界連邦実現への道の探求）がすでに採択されていると説明を加え、国内での運動が着実に進んでいることを具体的に示した。



一般社団法人 日本台湾親善協会

講演会のご案内

講演会 日時 令和四年五月二三日 月曜日

16時50分～17時50分

会場 ルポール麹町 3階エメラルド

講師 公益財団法人

日本台湾交流協会会長

大橋 光夫(おおはし みつお)先生

演題 『人類が地球を輝かせる為に』

敬称略

司会 代表がお見えいただきました。まもなく開催させていただきますので、少々お待ちください。先ほどは総会の方を皆様のおかげで無事あい進みまして、誠にありがとうございました。それでは、これより講演会を開催させていただきますが、今日は特別に謝長延代表にお見えいただいておりますので、一言お言葉を賜ればと思います。

また、本日もお忙しい中、大橋会長さんにも駆けつけていただき

ました。それではまず謝代表の方から、お言葉を賜りたいと思います。よろしくお願ひします。

謝 日本台湾親善協会の衛藤会長、日本台湾交流協会の大橋会長、ご来場の皆さん、こんにちは！

ただいまご紹介に預かりました、台湾駐日代表の謝長廷です。本日、日本台湾親善協会の通常総会の報告の開催、誠にとおめとうございます。また平素の日本と台湾の友好関係にもご尽力とご支援に心から感謝を申し上げます。

民間の友好関係、それから地方自治体の友好関係は、国の友好関係の、一番の基礎となるものでありますので、私も非常に注視しております。おかげさまをもちまして、これまで台湾と日本の自治体間の友好協定の数は一四〇件になります。その半数以上は、過去五年間に締結されたものであります。これもひとえに衛藤先生をはじめ、ご来場の皆さんのご支持による賜物でありますので、改めて感謝を申し上げます。

最近ロシアによるウクライナへの侵略により台湾有事のことも、国際的に注目の話題となる様になりました。先ほどのアメリカのバイデン大統領と岸田総理の会談の中にも、台湾の有事のことは中心の話題となっております。我々台湾は欠席してまうけれど、話題は台湾海峡の安全と平和の問題で、特にメディアの質問の三分の二は、台湾有事の事です。ですから、我々に

とってウクライナのこととは他人事ではない。特にロシアによるウクライナへの侵攻は、中国による台湾への侵攻に波及するかどうかの問題を、みんな心配しております。台湾は、警戒心も高まって民間の呼びかけで三〇〇〇万ドルの支援金と六五万トンの物資を、ウクライナと周辺国に届けて参りました。

台湾の民意調査によりますと、「もし中国から武力攻撃を受けるなら、台湾のため台湾を守るために、戦う意思があるかどうか」という問題を聞きましたところ、八〇%の人はイエスと答えました。「自分の国は、まず自分で守らなければいけないので戦いますと。」

先ほど、バイデン大統領は記者会見で、初めて「もしも台湾有事のときは、アメリカが武力介入する・防衛する」と言っていました。今までは「曖昧戦略」で、「あまりイエスノー自体」を言わなかったのです。今日の記者会見を記録しますが、午後になってこれらの発言を訂正するかどうか心配しますね。今のところは、訂正しておらずアメリカの承諾がある。必要なことは、実際は、アメリカ、台湾関係法の中に「台湾海峡の問題は、平和で解決しなければいけない」と書いていますので安心です。

また昨日から、WHOへの台湾参加の問題については、日本をはじめ、アメリカやたくさんの方々の支援をいただきまして、会議を開いています。改めて感謝申し上げます。それから今後も

コロナが収束しましたら是非台湾へまた交流に来てください。
今後も親善協会は台湾と日本の架け橋として、引き続きご支援
の程お願い致します。ありがとうございます。

(拍手)

司会 謝代表には本当にお忙しいところありがとうございますまし
た。続きまして、講演会に入らせていただきますけれども、ま
ず講師の大橋先生、衛藤会長よりご紹介を申し上げます。

大橋 謝長廷大使には、大変お忙しいところ、この日本台湾親
善協会第七三回通常総会にまさに、錦上花を添えて下さいまし
て、ありがとうございます。お礼を申し上げます。また、壇
上にはご案内の通り、謝大使閣下から素晴らしい生花、まさに
花を飾って頂きました。ありがとうございます、お礼を申し
上げます。

衛藤 ただいま大使閣下からお話がありました通り、今日はバ
イデン大統領、岸田首相の首脳会談・記者会見もありまして、
バイデン大統領が明確に「台湾有事のときには、台湾を米国は
しっかりと守る」ということが発言されました。「良かった」と

思っております。私どもの本日の通常総会はバイデン大統領の
訪日に合わせたわけではありませんが、期せずして、ぴしゃつ
と符号したことは良かったと思っております。

司会 今日の七三回通常総会を記念いたしましたして、特別に講演
をということでお願いをいたしました。講師の先生は、大橋光
男先生です。現在、日本台湾交流協会会長にご就任されていらっ
しゃいます。また、昭和電工の会長も長くお勤めになり、日本
経済界の重鎮でもあります。

今日は先生のお話は、「人類が地球を輝かせるために」と言
うことでお話をいただきたいと思えます。それでは早速お願い
致しますありがとうございます。

大橋 ただいまご紹介をいただきました、日本台湾交流協会の
会長を務めております、大橋でございます。どうぞよろしくお
願いいたします。

(拍手)

大橋 皆さまは、特に台湾の事はよくご承知かと思つたのです
が、前半は少し台湾のお話をいたしまして、その後少し私の考



えてることを皆さまにご理解いただくために、ちょっと話題を変えてお話をするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

謝長廷代表とはもう五年目のお付き合いでしょうか。特に地方でも大変に有名になられていて、地方の日本企業は今まで行ったことがないということがありまして、今後台湾に進出をするという時に、代表に大変いろいろご指導いただいたり、お世話になったりしていると思います。

私は、いつも双十節と言う台湾のお祝いの日が一〇月一〇日なので、それに近いときに、東京で行われる双十節にお招きをいただくのですが、そのたびに「日本と台湾の信頼関係というのは世界に誇るべきものであり、世界に類をみない形で現在、日本と台湾の関係はある」と申し上げております。そのことを必ずしも世界中の皆様がよくお分かりになっていないので、都度そのような関係なんだと話す

です。

とかく隣国といいますが、いろんな問題が出てまいります。それが全く無く、この数十年、日本と台湾の関係というのは、世界に誇るべきものであります。ぜひこれを世界に広げていけば、今のウクライナのような問題は、ほとんど解消するのではないかという風に考えております。

皆さんは親善協会のメンバーの方々ですから、台湾の事について申し上げても、もう十分にご承知かなと思えます。ですが簡単にご紹介をいたしますと、私が交流協会会長に就任いたしましたのは二〇一一年ですので、もう一一年ほど経つてるところでございます。

近年は新型コロナウイルスの問題がりましたが、日本と台湾は、このときにも手を携えて、台湾から大変なご協力をいただき、また日本からも台湾にできるだけのことを申し上げ、やりながらこの関係を進めてきております。最近新型コロナウイルスが少し増えているというような話も伺っておりますが、台湾では、日本よりもきっちりとした対策をなされて、とにかく世界的に見ても素晴らしい成績をコロナ対策で挙げてらっしゃると思います。

七二年にさかのぼりますと、日本からは田中角栄首相と大平外相の二人で訪中をして、中華人民共和国との国交正常化をして本年で五〇年です。そういう意味でも、今年は感慨深い年だろうと思えます。そうした背景もあり、五〇年前の一九七二年

に日本では交流協会、台湾では亜東関係協会というのができまして、歴史のマークをこの両方で開けてきたということでございます。もちろん親善協会も衛藤先生の大変なご努力もありまして、今や各方面で、素晴らしい成績を挙げていらつしやるんだらうと思います。

今回、私はあえて演題を「人類が地球を輝かせた方がいい」としておりますが、何を言ってるんだと言う疑問もありなると思いますが、もう少し後でお話をしたいと思います。

世論調査をいたしましても、本当に日本と台湾の関係というのは、信じられないぐらい高いのです。先ほど謝長廷代表からもお話をいただきましたが、台湾人が最も好きな国、世界で一番はもちろん日本なのです。本年の一月の調査のときには、過去最高の六〇%の方が「日本が一番好きだ」という数字が出てまいりました。ちなみに、二位が中国なのですが、その数字は五%です。ですから、日本が一位であるというだけではなく、六〇%と五%というのは、もう信じられないぐらいの大きな差でございます。一月に日本の国内調査をいたしましたところ、日本人の七六%の方が「台湾に親しみを感じる」としており、このような隣国というのは他にはございません。また七一%の日本人の方が「日台関係が良好だ」というふうにも、もちろん認めているわけがあります。

コロナ前の一九年には、二〇〇万人を超える、二二七万人の日本人が台湾を訪問しており、日本を訪問する台湾人は、なんと四八九万人となっており、両方合わせると約六〇〇万人、七〇〇万人ぐらいの方が行き来しているということになりました。台湾の人口は二三〇〇万人ですから、そういう意味では、五分の一の方が日本に訪れているということになります。

経済関係のことについても、いろいろ申し上げたいことはたくさんあります。貿易総額というのが、日台間で九・七兆円ということであり、これも二一年ですが、二〇年を大幅に上回り過去最高を記録しております。ですから、その関係というのは大変大きなものがありながら、毎年さらにその数字を上回っているということでもあります。

日本にとって台湾は、貿易金額で言いますと一位が中国、二位が米国ですので、第三位ということになりますけれども、各国の規模を加味すれば、日本と台湾は、信じられないぐらい関係が太いということになるかと思えます。

そもそも日本と台湾は、これまで東日本大震災のときなど、いろんな形で災害を受けた人たちをお互いに励まし合って、今までも来ております。ご承知のように直近の日本で一番ひどかった東日本大震災の時には、当時台湾からなんと二五〇億円近い寄付が集められて、日本に届けられております。これについては当時、民主党政権において野田総理が国会の場で御礼を申し上げるということでございます。

この日台友情のオープニングイベントでは、今台湾ではランドマークになっております台北一〇一ビルに「手を携えて頑張ろう」というメッセージを出して、日本からの感謝の気持ちを台湾の方々にお届けをしたりもしており、一方で台湾の蔡英文総統からビデオメッセージも頂戴して、台湾内外で多く注目もされております。

いずれにいたしましても、日台の友情をキーワードとして大々的に広報活動をする中で、日本からの台湾へのワクチン供与や、東京オリンピックやパラリンピックでもその様なことが重なった結果、日本と台湾との関係というのは、さらに太くなったというところでございます。

ただ何も問題はないというわけにはいかず、一つ問題があるとするれば東日本大震災のときに東北五県の食品輸入問題というのがありました。日本では既に、みんな食べておりますが、台湾では非常に神経質で、五県産のものはまだやめた方がいいんじゃないかという非常に強いご希望があり、なかなかこの問題が解決いたしませんでした。ですがこれにつきましては、ようやく福島を含めた五県からの農産物の商品も、台湾に輸出することが可能になりました。これは東北五県から見ると大変ありがたいこととございました。感謝申し上げます。

今後の台湾との関係も、からなずしも簡単ではないところもございますが、私個人としましては、李登輝元総統が二〇年の

七月に亡くされました。私も大変大きなショックを受けております。ご縁がありましたので、ご自宅まで伺ったときに、「自分がやってきたことは、大したことではないけれど、これで日本との関係がいよいよ深く、親しくなることは、本当に一生涯の私の目的であり、楽しみであった」とお話を伺いました。「ここまで来たのであとはあなたたちに頼むよ」と言って写真を並んで撮ったんですが、私の手をギューと握って離さないんです。李登輝先生がこれだけの強い思いを、手で表していかれたということは、私にとっても大変な重みでありまして、何としてでも李登輝先生のそういったご意向を今後もさらに深めて、我々や皆さまの努力を合わせて、頑張っていきたいというふうに思っております。

以上が日本と台湾の関係でございます。謝長廷先生の前でこんなことを申し上げるのは大変僭越なのですが、台湾においての野党の関係を申し上げますと、二一年九月に国民党の主席選挙がありまして、現職の江啓臣という方が敗れたのです。

前にもいろいろあつた朱立倫さんという方ですが、立候補して勝利をされました。しかし、朱立倫さんに対する投票というのは四五・八%とそれほど大きくなかったのです。従って国民党内での対立というのがかなり見えてきており、そういう意味では、蔡英文の民進党と比較して、まだ政権を取るべき党としてはちょっと弱いなという感じがしております。

また兩岸関係ではやはり中国との関係ありますが、中国は今もお話にありましたけれど、姿勢は崩しておらず、何と云っても昨年七月一日に行われた中国共産党の設立一〇〇周年記念の式典で、習近平国家主席が「台湾問題を解決して、祖国の完全な統一を実現することは中国共産党の歴史的な責務である」、「いかなる台湾独立の企みも粉砕する」、などとすごい強い言葉で自分たちの考え方を述べたわけですが、一〇月九日に辛亥革命の一〇〇周年という県大会がありました、そのときにはもう兩岸の平和的な統一を目指すという方針をはっきりしておりますので、そういう意味で中国の、主権と領土を守るという意志をあまり過小評価するのは、リスクがあるというふうに考えております。

人民解放軍機は、台湾の防空識別圏へ常に侵入してきており、二〇二〇年には約三八〇機が、二一年にはこれが九〇〇基を超えております。中国としては意図的にそのようなデモンストレーションを強く出してきたということだろうと思います。

そういう意味で、中国に対する警戒感を、日本としてはこれからしつかりとした形でやらなければいけないですし、特にアメリカから、台湾を守ることが明確に出てまいりましたので、これは台湾にとつては大きな要素だろうと思います。

そしてウクライナ問題ですが、これはなかなか難しい問題であります。蔡英文総統は、ロシアによるウクライナの主権侵害

に対する非難と、徹底的に批判をしてるわけですが、台湾は「国際社会の一員として紛争の平和的解決に資する努力に参加することを望む」と言っており、台湾も国際社会の対ロシア対策に対しては、アメリカや日本と同じ姿勢で臨んでいくということを示しています。

台湾については、もう皆さんもよくご存知の所で釈迦に説法でございましょうから、あまりこれ以上のことを深く申し上げるつもりはございませんが、いずれにしろ、日台の関係が根底から相互理解が不可欠であり、十分な関係理解というのが必要だろうと思っております。

これから更に台湾の若い方々が日本に対して十分な知識を持っていたら、日本を好きになって日本と一緒になんかやろうというふうに多様な方々や若い方々にも理解を持っていたかどうかということが非常に大事だと思しますので、日本側でも若い学生など若い方々をなるべく多く受け入れて、日本を理解していただくようにしていこう、ということを考えております。

ここまで日本と台湾の関係についてお話をいたしました、これからの「日本と台湾の関係をどのようにしていくのか」ということも含めて、「人類が地球を輝かせるためにどうすればよいのか」を今日のテーマにしております。これにつきましては、日台親善協会会長の衛藤先生と志は全く同じで、いつもご

指導いただいております。

耳慣れないお言葉かとは思いますが、世界連邦という問題があります。世界連邦というのは、国家そのものがなくなるわけではないですが、ある一定の重要なことについては、国家としての取り決めに上にあげて、世界全体を連邦とし、その連邦で取り決めていくということなのですが、一番の問題が「核」であります。

今ご承知のように、安全保障理事会の理事国が五カ国で、アメリカ・イギリス・ロシア・中国・フランスであります。一九四五年に日本が敗戦し、沖縄統一から七〇周年という中で、日本は何ができるのかということを実際に岸田首相は考えられております。最近、首相が個人のお名前で書かれた本で「核兵器のない世界へと」がありますが、ご承知のように岸田首相は広島出身でございます。日本唯一の原爆被災国であり、広島と長崎において原爆により、二〇万人に近い人が亡くなりました。このことについて、世界の人にたまなく理解をしていただいて、とにかく核がない、あるいは核が使えない、核のない世界を作りたい、ということをお岸田さんは本当に考えていらっしゃると思います。

今、世界連邦という形をとって、個別の国が核をどうしようとしても、核だけは世界連邦に権限を与えるというような世界連邦で核を一括管理することを言うわけですが、今のロシアや中国がそんな事を引き受けるかというところの時点では、非現

実に感じます。しかし、これができなければ人類は滅びるんじゃないかと私は思っております。なぜならば、今の核の力というのは広島の数十倍はありますから、北朝鮮が仮に一つ核を落とせば、あつという間に世界・人類は滅亡してしまうかもしれないというぐらいの、本当の危機に今あるのです。

そのため、世界連邦は現実にニューヨークに本部があるのですが、日本にも衛藤先生が会長・責任者をやつてらっしゃる運動本部が日本の国会にあり、これは与野党問わずそこで活動をしていただいているわけです。また都道府県でも、二十七、八の県あるいは市で運動本部を作つて活動していますので、決して言葉だけではなく、現実に動き始めているということです。

これはすこし語弊がある部分もあるのですが、今の国連ができたときに中国はどのような状況だったかというところ、蒋介石が毛沢東と戦つて敗北し、台湾に逃げていきました。その後、台湾で大変評判の悪い政治を行い、台湾ではあまり評価されていない方なのですが、その蒋介石が一九四五年には、この国連を作つたときの責任者です。

では、ロシアはどうだったかというと、ロシアは日本との間で不戦条約つていうのがありましたが、戦争が終わる一九四五年八月一五日のわずか九日前に一方的に不戦条約を破棄し、日本との戦いに入ったことにしてしまつた。樺太から千島列島や北方四島まで、彼らは全部自分たちのものにし、当時満州にいた人たちもみんなシベリアに連行して、相当な方が亡くなり、帰つ

てきてからもまともな生活ができないような状態の方がたくさんいらっしまったような、悲惨な生活をシベリアで強いたので。それが、当時戦勝国のトップだったわけです。

今この七〇年たつても、そのような形でできた国連が、いまだに機能しないにも関わらず権限を持つてると言うのはおかしいのです。

ですから日本は、何が何でも先頭に立ってでも国連の改革をし、少なくとも改革のその先には、世界連邦という形で世界を一つの国に近い状態にしたいということを、やはり岸田首相は本当に夢ではなく考えていらしゃる。来年のG7の会合は、日本でこれも広島でやるということを岸田首相はお決めになりました。オバマ元大統領を広島に連れていき、アメリカの大統領が広島の被爆地に行くなんてことは考えられなかったのですが、実際につれていき、その実態を見てもらった。それだけやはり岸田首相には原爆について強いこだわりがありますので、これを何とか日本が、ある種のリーダーシップをとりながら、他の国の理解も得ながら、「核のない世界」を作っていこうというのが今一番大きな岸田首相のテーマではないかと思っております。

もちろん「核のない世界」といった内容をいきなり出してもなかなか実現するわけではないので、長い時間がかかると思いますが、それまでの色々な経緯はあるでしょう。現実の首相の仕事としてそればかり言うわけにはいかないですが、本当の心底

にあるのは、本を読んでいただければわかりますが、「核のない世界を作ろう」ということであります。

さて、「人類が地球を輝かせる」と言うことはどういうことかというところ、要するに「国や政治家が国のため国民のために働く」のではなく、「むしろ「世界とその世界にいる人類のために働け」ことであり、自国だけが繁栄すればそれでいいというわけにいかない世の中になってきているということなのです。地球は一つであって、その地球が本当に繁栄するためには、やはり一國が繁栄しても他國が駄目であればどうにもなりません。

なぜどうにもならないかというと、空気の汚染問題等もありますが、例えば、温度が五度上がったら、海面が高くなり沈む国はたくさんありますし、そもそも酸素が足りなくなりますから、人間は生きていけなくなるのです。今そういう状態にないから皆様にはあまりピンとこないだけであって、五年一〇年一五年経っていったら、本当にそういう時代が来るのです。

司馬遼太郎という作家が、彼は本気で中学生・小学生に対する授業で「あなたたちは二一世紀に活躍しなくちゃいけない世代だ。自分はもう死んでるが、そのときにどうやって活躍ができるような地球を維持できるか、これが最大の問題だ」ということを言っていて亡くなっています。

これは我々が真剣に今後考えていかなければならないことで、非常に大事なことを今衛藤先生は国会でリーダーとして行って

いるわけです。確かに誰も反対はしない。しかしやらなければ駄目なのです。「そのことを皆さんはマスコミや新聞・TVでご覧になりましたか？」出てこないですよ。私に言わせればそのくらいマスコミでもまだ関心が薄いのです。

しかしこの問題は、必ず二一世紀の近い将来に人間が解決しなきゃいけない大きな問題として出てくるはずですよ。従って、私は「人類が地球を輝かせるためには何をしなければいけないか」ということを、みんなで考えようじゃないかと話しているわけがあります。

時間ももうだいぶ経ちましたので、このぐらいでお話はやめますけれども、今日のチラシの下を見て頂くと「国民政治協会の会長」と記載がありますが、この国民政治協会というのは、自民党唯一の政治資金団体でその会長を仰せつかっております。

就任の際、幹事長から電話があり、またおいでになったあとに安倍さんから電話かかってきました。そこで私は、「自民党の事についても平気で物を言うけれどもそれでもいいか」というお話をしたら、「全て自民党が正しい事を言ってるわけではないので、どうぞ言ってくださいと。いろんなこともあれば言ってくれ」というお話があったのでお引き受けして、もう二八年ぐらい経ってるわけです。

先日自民党大会が三月一日にあったのですが、そこで岸田さんが二つの事を述べました。一つは「先ほど申し上げたこと」、もう一つは「デジタルをしっかりと日本はやっていこう」

ということでした。また国連については、「国連秩序の意識改革」をやるんじゃないか、つまり「世界連邦」とまで飛躍しないで、それをまずやろうと表現をされてきました。その結果として進んでいった先に、次は「世界連邦」だというお考えを岸田さんはお話をされています。

私は岸田さんとも直接お話をしてご本についても良く理解しておりますが、衛藤先生が一番ベースになる国会議員の「世界連邦」の責任者をやつてらっしゃるということで、ぜひ皆様方、そのご理解をいただいて進めていただきたいと思えます。

また今日は、謝長廷代表まで大変ご多忙のところをおいでいただいて本当にありがとうございます。冒頭に申し上げましたように、日本と台湾の関係は、絶対に揺るぎのない特別な関係で、世界に誇れる関係ですので、この関係をぜひ維持しながら、今度はそれを大きく広げて世界のために、この日本と台湾が働けるような時代が来ることを皆様と共に祈りたいと思えます。どうもありがとうございます。

(拍手)

司会 大橋会長には、お忙しいところおいでいただき、日台の友好親善、この発展はもとより地球市民として、人類が地球を

輝かせるために我々がみんなで力を合わせようじゃないかと、大切なお話をいただきました。本当にありがとうございます。ではもう一度、会長に拍手をお願いします。

(拍手)

衛藤 私からもお礼を申し上げます。大橋 光夫先生、示唆に富んだ貴重なお話ありがとうございました。先般も官邸に行かれて総理に会われ、また衆議院議長にも最近も会われまして、国連改革のことについてご意見されたことをよく承っております。実は国会におきましても、世界連邦推進の特別決議を既に衆議院・参議院でやってるんです。ほとんど知られてません。我々の努力不足ですが、もう既に衆参両院本会議やっています。「世界連邦を作ろう」という、改革です。

たまたま伊吹議長から、俺の後をやってくれんかということでご引き受けました。衆議院議長がやるべきと申しましたら、まずあなたがやってくれと。そこで私は、細田議長にあなたがやるべきだと言いますが、申し訳ないけど伊吹の後はあなたがやってくれということ、今私が繋いでおります。先生の熱い想いをよくわかってますので、しっかりとこれから「国連改革」とまた先ほど申し上げました「世界連邦」のことにも取り組んでまいります。

今日はお忙しいところありがとうございました。



衛藤征士郎会長

謝長廷閣下

大橋光夫先生

令和四年

暑中お見舞い申し上げます

(順不同)

<p>台北駐大阪經濟文化辦事處</p> <p>處長 向 明德</p> <p>大阪市北区中之島二丁目三十一番八 中之島フエスティバルタワー一九F 電話〇六(六二二七)八六二三</p>	<p>一般社団法人 日本台湾親善協会会長 衆議院議員</p> <p>衛 藤 征士郎</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館二〇一号室 新21世紀政治經濟研究 研究所 電話〇三(三五〇八)七六一八</p>	<p>公益財団法人 日本台湾交流協会</p> <p>理事長 谷崎 泰明</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處</p> <p>代表 謝 長廷</p>
<p>台北駐日經濟文化代表處 札幌分處</p> <p>處長 粘 信士</p> <p>札幌市中央区北四条四丁目一番地 伊 藤 ビ ル 五 階 電話〇一一(二二二)二九三〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 那覇分處</p> <p>處長 王 端豊</p> <p>那覇市久茂地三丁目一五一九 アルテビル那覇六階 電話〇九八(八六二二)七〇〇八</p>	<p>台北駐大阪經濟文化辦事處 福岡分處</p> <p>處長 陳 銘俊</p> <p>福岡市中央区桜坂三丁目二二四二 電話〇九二(七三四)二八一〇</p>	<p>台北駐日經濟文化代表處 横浜分處</p> <p>處長 張 淑玲</p> <p>横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話〇四五(六四一)七七三七</p>
<p>衆議院議員</p> <p>金子 恭之</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二 衆議院第二議員会館四一〇号室 電話〇三(三五〇八)七四一〇</p>	<p>衆議院議員</p> <p>奥野 信亮</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二 衆議院第二議員会館一〇一号室 電話〇三(三五〇八)七四二一 FAX 〇三(三五〇八)三九〇一</p>	<p>衆議院議員</p> <p>大野 敬太郎</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二 衆議院第一議員会館二二一号室 電話 〇三(三五〇八)七一三二 FAX 〇三(三五〇二)五八七〇</p>	<p>衆議院議員</p> <p>井上 信治</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二 衆議院第一議員会館三一七号室 電話 〇三(三五〇八)七三二八</p>

令和四年

暑中お見舞い申し上げます

(順不同)

<p>衆議院議員</p> <p>前原誠司</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館八〇九号室 電話〇三(三五〇八)七一七一 FAX〇三(三五九二)六六九六</p>	<p>衆議院議員</p> <p>古屋圭司</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館四二二号室 電話〇三(三五〇八)七四四〇 FAX〇三(三五九二)九〇四〇</p>	<p>衆議院議員</p> <p>根本幸典</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館九〇六号室 電話〇三(三五〇八)七七七一</p>	<p>衆議院議員</p> <p>谷川弥一</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第二議員会館一〇一七号室 電話〇三(三五〇八)七〇一四 FAX〇三(三五〇六)〇五五七</p>
<p>前衆議院議員 なのはな法律事務所・所長弁護士</p> <p>富田茂之</p> <p>千葉市中央区中央四一三二一三 なのはなビル四階 電話〇四三(二〇二)八〇七二 FAX〇四三(二〇二)八〇七二</p>	<p>参議院議員</p> <p>山本順三</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五五〇)一〇一九</p>	<p>参議院議員</p> <p>松下新平</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 参議院議員会館八二四号室 電話〇三(六五五〇)〇八二四 FAX〇三(六五五〇)〇八二四</p>	<p>衆議院議員</p> <p>和田義明</p> <p>東京都千代田区永田町二丁目二一 衆議院第一議員会館四一〇号室 電話〇三(三五〇八)七一七</p>
<p>日本華商總會</p> <p>會長 朱 亮 理事長 林 冠銘</p> <p>東京都港区六本木七丁目一〇 華商會館四階 電話〇三(三四〇八)四四六八 FAX〇三(三四〇八)〇三八二 Email:nhonkashon@ahb.co.jp</p>	<p>中華民國留日台灣同鄉會</p> <p>會長 蕭玉蘭</p> <p>東京都新宿区西新宿四丁目二二〇 電話〇三(六二四〇)一五二六 FAX〇三(六二七六)六一六六</p>	<p>中華民國留日橫濱華僑總會</p> <p>會長 張 儀 理監事 一同</p> <p>神奈川県横浜市中区山下町一四〇番地 電話〇四五(六八二)二一五四 FAX〇四五(二〇二)二八五</p>	<p>日本中華聯合總會</p> <p>會長 朱 亮</p> <p>東京都港区六本木七丁目一〇 華商會館三階 電話〇三(五八四三)〇五八五 FAX〇三(三四〇八)〇三八二 Email:hocalinfo@gmail.com</p>

令和四年

暑中お見舞い申し上げます

(順不同)

<p>オリオンビール株式会社 取締役会長 嘉手苅義男 沖縄県豊見城市字豊崎一丁目一 電話〇九八(九一一)五二二九</p>	<p>株式会社 永島製作所 代表取締役 永島 剛士 石川県羽咋市寺家町夕一番九 電話〇七六七(二二)七〇一一 FAX〇七六七(二二)七〇一一</p>	<p>株式会社 佐伯コミュニケーションズ 代表取締役社長 平岩 照正 大分県大分市広瀬町二丁目二二 電話〇九七(五四三)一〇一一 FAX〇九七(五四四)四〇二八</p>	<p>後藤泌尿器科皮膚科医院 院長 後藤 康文 岩手県宮古市大通一丁目二四 電話〇一九三(六二)三六三〇</p>
<p>菊地 三 誠 埼玉県所沢市下安松五〇〇一 電話〇四二九(四四)九二九六 FAX〇四二九(四四)九二九六</p>	<p>株式会社 ホテル横須賀 ホテルニューポートヨコスカ 代表取締役 長尾 和典 神奈川県横須賀市小川町二番地一三 電話〇四六(八二八)一一一一 FAX〇四六(八二八)一一一一</p>	<p>東光株式会社 代表取締役 山口 裕志 東京都渋谷区富ヶ谷二丁目一五 電話〇三(五七九〇)五七九〇 FAX〇三(五七九〇)五七九〇</p>	<p>友盛貿易株式会社 代表取締役 鄭 尊仁 横浜市中区太田町二丁目一一 電話〇四五(二二六)二二九八 FAX〇四五(六六三)二二八九</p>
<p>株式会社 オリザ 会長 三河 長夫 埼玉県入間市上藤沢三八八一八 電話〇四二(九六四)六六〇〇 FAX〇四二(九六四)六六一四</p>	<p>落合興産有限公司 代表取締役 吉村 藤夫 東京都青梅市沢井三丁目八四 電話〇四二八(七四)九九七七 FAX〇四二八(七四)九九七七</p>	<p>株式会社 Drone Work System 代表取締役 手島 朋広 福島県いわき市常磐関船町一丁目一四 電話〇二四六(六六八)六五三四 FAX〇二四六(六六八)七四八二</p>	<p>福島エヴァグリーン株式会社 代表取締役 新屋 正利 福島県郡山市熱海町熱海三丁目三八</p>

令和四年

暑中お見舞い申し上げます

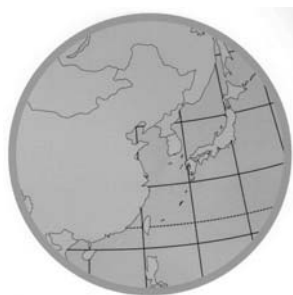
(順不同)

<p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>副会長 張 碧華</p> <p>千代田区外神田三―七―七 電話〇三(三二五七)〇〇三二</p>	<p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>副会長 張 建國</p>	<p>株式会社 五常光産</p> <p>代表取締役 屋島 範光</p> <p>東京都新宿区西新宿七―一三―五 電話〇三(五三三〇)八〇八八 FAX〇三(五三三〇)〇四五五</p>	<p>三井住友海上火災保険株式会社代理店 株式会社 八 福</p> <p>岡崎 清 一</p> <p>東京都北区神谷一―三―一六―一〇二 電話〇九〇(八八一五)一七七一</p>
<p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>業務執行理事 程 金笙</p>	<p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>専務理事 赤松 則宏</p>	<p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>副会長 岩田 善信</p> <p>東京都港区南青山五―六―一 サウス青山マンション五〇四号 電話〇三(三三〇九)七八八八 FAX〇三(三三〇九)九四〇五</p>	<p>元 衆議院議員 一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>副会長 並木 正芳</p> <p>埼玉県所沢市上安松六二 電話〇四(二九九五)四八九一 FAX〇四(二九九五)八〇六一</p>
<p>有限会社 Tommy's Works</p> <p>取締役 富田 家彰</p> <p>東京都練馬区練馬四―五―一三―一〇五 電話〇三(六七六四)一〇〇〇 FAX〇三(六七六七)六四三四</p>	<p>長龍貿易株式会社 クラシックカー輸出業務</p> <p>代表取締役 榎本 有里</p> <p>埼玉県新座市中野二―七―五 電話〇四八(四七七)三五五八 FAX〇四八(四七八)八六六五</p>	<p>明石 散 人</p> <p>中央区築地二―一五―一〇―二〇八 電話〇三(三五四二)八八四八 携帯〇九〇(八八七二)四七七一</p>	<p>一般社団法人 日本台湾親善協会</p> <p>理事 森 康郎</p>

令和四年 暑中お見舞い申し上げます (順不同)

学校法人電子学園 日本電子専門学校 情報経営イノベーション専門職大学 理事長 多 忠貴	エイチアイインターナショナル株式会社 代表取締役 李ハロルド 東京都新宿区新宿五―一七―一八 電話〇三(三二〇三)〇一二一 FAX〇三(三二〇三)〇一二九	相続美術資産評価委員会弥生会 会長 熊沢 正幸 東京都港区南青山五―四―二七―九〇四 電話〇三(三四〇九)四〇三五 FAX〇三(五四八五)四五六三	児玉源太郎と学ぶ会 発起人代表 浅見 哲 東京都千代田区九段北一―一―一八〇一 電話〇三(三二六五)七一〇〇 FAX〇三(三二六四)七一〇〇
---	--	--	---

アジアの民主と平和 日台友好親善にあなたの力を！！



只今、会員を募集しております。

入会の手続き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会の理事会の議を経て承認されます。

法人会費 50,000円以上
賛助会費 30,000円以上
個人会費 10,000円以上

季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和四年 夏季号 (No.82)

発行日 : 令和4年7月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : 株式会社サンユー



台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



Home page



Face book



Twitter



Instagr^m